単位mm 撤脚 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 測定箇所 //SillSillSill 基準高は、施工延長40m(測点間隔25mの場合は26m)につき 1 箇所。延長40m(又は26m)以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 施工延長40m (測点間隔25mの場合は26m) につき1箇所、延長40m (又は20m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 測定基準 L=0,-02 0,は改良体先端深度 02は改良体天端深度 全数 (任意仮設は除く) 1 施工箇所毎。 全本数 設計深さ以上 設計値以上 設計値以上 設計値以上 0/4以内 ± 100 規格値 -100-200-50 100 Γ_{5} \triangleright Ъ \triangleright 0 О \Box Γ_1 , 測定項目 根入長 展 位置·間隔 配置誤差 削孔深さ 基準高 基準高 杭径 深度 軾 湐 渕 士留・仮締切工 (連節ブロック張り工) 国結工 (粉体噴射機拌工) (高圧噴射機拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰ペイル工) 土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板) 土留・仮締切工 (アンカーエ)

摘要 D: 杭径 測定箇所 02 D 基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき 1 箇所。延長40m(又は50m)以下のものについては1施工 箇所につき 2 箇所。 遂びは地工延長20m(測点間隔25mの場合は25m)につき 1 箇所。延長20m(又は25m)以下のものは、1 施工箇所に つき 2 箇所。 基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につぎ 1 箇所。延長40m(又は50m)以下のものについては1施工 箇所につき 2 箇所。 遂びは地工延長20m(測点間隔25mの場合は25m)につき 1 箇所、延長20m(又は25m)以下のものは、1 施工箇所に つき 2 箇所。 施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1 施工箇所につき2箇所。 (任意・仮設は除く) 施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く) 測定基準 D/4以内 規格値 -100 -200 -200 -100 ± 50 +50 -50 -50 -50 300 -50 \triangleright \triangleright \triangleright \triangleright Ъ \Box ≽ 0 測定項目 赋 連壁の長さ 変位 連壁の長さ 天踏幅 基準高 基準高 壁体長 壁体長 基準高 変位 뇄 土留・仮締切工 (締切盛土) 土留・仮締切工 (中詰盛土) 地中連続壁工 (壁式) 地中連続壁工 (柱列式)

単位mm

単位mm 撤脚 ē D 測定箇所 \$ [ч - □ Wz <u> I</u> \exists ロットの大きは500mとする。 1ロットの大きは500mとする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行 い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200mに満たない場合は10mごとに1点とす る。 施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)につき1箇所、 延長40m(Xは260m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所 所。 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は20m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 測定基準 1 施工1箇所毎。 1 施工箇所毎 C. 測定値の分布の標準偏差は、目 標整膜厚合計値の20%以下。ただ し、測定値の平均値が目標塗膜厚 合計値より大きい場合はこの限り ではない。 a. ロットの塗膜厚平均値は、目標 塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の10%以上。 規格値 ± 50 -100-30 -200 ± 20 -200 -20 -50 -50 \mathbf{W}_2 \triangleright \triangleright h≧3m w 1, 測定項目 塗膜厚 基準高 基準高 とし 延長 延長 뾀 肩さら プレキャスト擁壁工 場所打擁壁工 現場塗装工

摘要 Ç ţ I t D 測定箇所 Ьž $\mathbf{h}_{\mathbf{z}}$ W.2 ₹ Þ <u>ئ</u> ± <u>۔</u> 'n 4 ī ۲ 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、 延長40m(又は26m)以下のものは、1施工箇所につき2箇 所。 コア一條取は、200mにつき1箇所以上。ただし施工延長 200m末端100m以上の場合については、1個採取するも のとする。また、複数路線の場合は各路線毎に同上の採 取頻度とする。 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、 延長40m (又は50m)以下のものは、1 施工箇所につき2箇 所。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は26m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 測定基準 1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合 1 箇所/1 施工箇所 1 施工箇所毎 規格値 +30 +30 -200 -200 ± 30 -10-10-20 -30 -30 -20 -30 -30 h 2 ≽ \triangleright \triangleright ≽ 測定項目 t 1 $t_{\ l} \sim t_{\ 5}$ \mathbf{W}_2 h 1 基準高 基準高 W_1 延長 と画 h., 聖 高さ 延長 \triangleright とし 聖 10 +0 基準高 聖※ <u>世</u>※ 恒 ※ 側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝) (自由の配側溝) 街渠工(街渠コンクリート) 街渠桝 (集水桝) トンホークエ 現場打水路工

単位mm

アド田牧庙
*
#
Ľ
类
無無
無井田
你田甘淮
你田甘淮
無井田

申(<u>V</u> 画						1								
測定簡所			W. L.				L ₂	++++	(+ + + + +	₩		888	A	4
測定基準	図面の寸法表示箇所で測定。		施工延長40m (測点間隔25mの場合は20m) につき1箇所、延長40m (又は20m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。	幅、厚さは40個につき1箇所測定。		1施工箇所毎	施工延長40m (測点間隔25mの場合は26m) につき1箇所、延長40m (又は26m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。	1施工箇所毎		施工延長40m(測点間隔25mの場合は20m)につき1箇所、 延長40m(又は20m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			各格子間の中央部 1 箇所を測定。	
規格値	$\pm 2 \cdots h \le 0.5 m$ $\pm 3 \cdots 0.5 < h \le 1.0 m$ $\pm 4 \cdots 1.0 < h \le 2.0 m$	± (10+L/10)	±100	-20	-20	-200	+ t/2	— t/2		-100	-100	-200	-30	-30
測定項目	刃口高さ h(m)	外周長 L (m)	△ 皇嶽箕	1 2 2 1 2 2 3 3 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	積 幅 W1、W2	延長 Li, L2	起準高 ▽ 海維高 ▽	延長 1.1, 1.2		基準高 ▽	M	T A iii	w m	ゼ 40
工種	丁 一 人 新	ン L 並が変わる				根固めプロックエ					************************************			護岸付屍物工

単位mm 摘要 測定箇所 D D DIE Dim 延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 機方向は、5m毎。 また、斜面は、洗玩、法肩とし必要に応じ中間点も加え る。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。 延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横方向は、5m毎。 また、斜面は、法所、法肩とし必要に応じ中間点も加え る。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下である こと 測定基準 10個の測定値 の平均(X10) -1000-1200 -1000-1200上級 -800 -800 上限+200 規格値 -200 -200 -200-200 個々の測定値 (X) 는 전 +200 +200 +200 +200 +200 +200 1000ps 1350ps 420ps 600ps 500ps 200ps 250ps \triangleright 測定項目 延長 延長 뾀 基準高 聖 電気船 ディーガッ語 基準高 \triangleright 後渫船運転工 (ポンプ後渫船) 後渫船運転工 (グラブ船) 日

出来形管理基準及び規格値

(Wince)是是是Wanted和自己的,
m 上座 x + v m 、 (明)
-50
-30
1 施工箇所毎 200
図面の寸法表示箇所で測定。 ±3…0≤10 ±4…0>10
製品全数を測定。0~+30
両端部及び中央部付近を測定 製計値±4
± 5
図面の寸法表示箇所で測定。 ±3…0≤10 ±4…0>10
図面の寸弦表示簡所で塑売 ±3…0≦10 ±4…0>10

単位mm 摘要 I 型鋼桁 測定箇所 原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で 測定。 各主桁について10~12m間隔を測定。 測定基準 各支点及び各支間中央付近を測定。 各支点及び各支間中央付近を測定。 図面の寸法表示箇所で測定。 $\begin{array}{c} \pm 2 \cdots w \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0 \\ \pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w \end{array}$ $-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots 20 < L \leq 40$ $\begin{array}{c} \pm 3 \cdots \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots \ell > 10 \end{array}$ $\begin{array}{c} \pm 3 \cdots \emptyset \leq 10 \\ \pm 4 \cdots \emptyset > 10 \end{array}$ 規格値 w/200主桁のそり δ (mm) L (m) フランジの直角度 δ (mm) w (mm) フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 部材長0 (m) 部材長0 (m) 測定項目 部村 仮組立時 部村 プレビーム用桁製作工 橋梁用防護柵製作工

画
容
規
B
皮
譽
基
뻢
讏
崇
*

摘要																						
測定箇所																						
測定基準	製品全数を測定。 ※1)ガス切断寸法を準用する。	※2)片面のみの削り加工の場合も含む。	※3) ソールブレートの接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはC113を適用するものとする。	※4) 全移動量分の遊問が確保されているのかを測定する。	※5) 組立後に測定。																	
規格値	+2	ボスの突起を基準とした孔の位置ずれ	1以下	ボスの突起を基準とした孔の位置ずれ	1.5以下	+3	+4	JIS B 0403—1995 CT13	+0	+1	+0	1 + 1	JIS B 0403—1995 CT13	+ 2	± € ∕ 100	+ 3	1+3	(H/200+3) 小数点以下切り捨て	JIS B 0403—1995 CT14	JIS B 0403—1995 CT15	JIS B 0405—1991 粗級	IIS B 0417—1979 B級
測定項目	孔の直径差			出繼	>1000mm		カ 北ル 加 >100mm 八 エ	孔の中心距離※1	がスの直径	一米スの高み	ボスの直径	ボスの高さ	上沓の橋軸及び橋軸直角方向 の長さ寸法	形	a a b c c c c c c c c c c c c c	上、下面加工仕上げ	トゴ 株 株 オン 用 <u>≤300mm</u>	造》 用) H>300mm	鋳放し長さ寸法 ※2)、※3)	鋳放し肉厚寸法 ※2)	削り加工寸法	ガス切断寸法
重	1	 极企	1年光 5	7 「 可 を か	<i>S</i>	- ソゼ - ド、、	ターボ・ 春枝 グーバン)) \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \	, t	<u>×一</u> 光			上帝の神の長の大学	· 《 》 《	4 投票	果	一	Н		非	1 世	
工種											鋳造品	(金属支										

垣
容
び規
7
進
其
型
业
米形

単位mm 摘要 歯型板面の歯咬み あい部の高低差:咬 みあい部中心A, B 据付け高: [後]と「係の設計値」との差分 仕上げ高:後打ちコンが有る場合「係」と「億」の差分、 後打ちコンが無い場合「係」と「⑥」の差分 Aゴムジョイント部材の天端高さ 仕上げ高さ の舗装の計画高 点の差 測定箇所 橋軸方向 橋軸方向 N B × A あと打ちコンクリート 高コングニナの 米指調み 舗装面 D 表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3mの直線定規で捌って凹凸が3mm以下 表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下 高さについては車道端部、中央部において橋軸方向に各3 点計9点 歯咬み合い部は車道端部、中央部の計3点 高さについては車道端部及び中央部の3点 測定基準 舗装面に対し0~-2 舗装面に対し0~-2 舗装面に対し0~-2 規格値 1+3 1+2 +2 က 橋軸方向各点誤差の相対差 歯型板面の歯咬み合い部の高低差 W W 歯咬み合い部の横方向間隔 歯咬み合い部の縦方向間隔 据付け高さ 据付け高さ 表面の凹凸 仕上げ高さ 表面の凹凸 仕上げ高さ 測定項目 巵と (銅製フィンガージョイント) 伸縮装置工(ゴムジョイント)

単位mm 摘要 M 測定箇所 \overline{W}_2 h1 WZ IW W 1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。 1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。 測定基準 1ブロックを抽出して測定。 $-10 \sim +20$ $-10 \sim +20$ -5~+10 $-10 \sim +20$ $-20 \sim +30$ $-10 \sim +20$ 規格値 $0 \sim +30$ $0 \sim +30$ 1+3 +1 地覆の高さ h 地覆の幅 w² 地覆の幅 №1 有効幅員 W2 有効幅員 w3 測定項目 $_{1}^{\mathrm{W}}$ 画な h1 画さ h₂ 高さ 天端幅 聖 橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工 検査路工 地覆工 工種

出来形管理基準及び規格値

単位mm 摘要													
测定箇所													
測定基準	支承全数を測定。 B:支承中心間隔 (m)	支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。	注2) 可動支承の遊間 (La、Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量 δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。	注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。	詳細は、道路橋支承便覧参照。			支承全数を測定。 B:支承中心間隔 (m)	上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下シャス、ちま、ちゅかな配がりに 結合は 2	5.111111	時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。	詳細は、道路橋支承便覧参照。	
規格値	1-5	設計移動量 +10以上	コンクリート橋 鋼橋 +-5 +-(14-0 5(18-2))		1/100	ಬ	温度変化に伴う 移動量計算値の1/2以上	+15	設計移動量十10以上	コンクリート橋 細橋 ±5mm ±(4+0.5(B-2))	1/300	ιc	温度変化に伴う 移動量計算値の1/2以上
測定項目	据付け高さ 注1)	可動支承の移動可能量 注2)	支承中心間隔 (橋軸直角方向)	橋軸方向	水平度 ————————————————————————————————————	可動支承の橋軸方向のずれ同一支承線上の相対誤差	可動支承の移動量 注3)	据付け高さ 注1)	可動支承の移動可能量 注2)	支承中心間隔 (橋軸直角方向)	格軸方向 水平度 橋軸直角方向	可動支承の橋軸方向のずれ同一支承線上の相対誤差	可動支承の移動量 注3)
工種工工				支承工 (鋼製支承)							支承工 (ゴム支承)		

単位mm	摘要								
	測定箇所	 単程間の場合 → L L <l< th=""><th>## P 7</th><th></th><th>Interpretated the second secon</th><th></th><th>δ The h</th><th>δ 1</th><th>単位の数値とする。</th></l<>	## P 7		Interpretated the second secon		δ The h	δ 1	単位の数値とする。
	測定基準	各桁每に全数測定。	L: 主桁・主構の支間長 (m)	主桁、主構を全数測定。 L:主桁・主構の支間長 (m)	各支点及び各支間中央付近を測定。	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。	各主桁の両端部を測定。 h:主桁・主構の高さ (mm)	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 61,82のうち大きいもの たな、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容範囲の 下限値を0mmとする。 (例:設計値が3mmの場合、すき間の許容範囲は0mm ~8mm) ※は仮組立検査を実施しない工事に適用。	「主桁、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。
	規格値	$\begin{array}{c} \pm & (20+L/5) \\ \pm & (20+L/5) \end{array}$	± (10+2L/5)	± (25+L/2)	±4···B≦2 ± (3+B/2) ···B>2	± 10	3+h ∕1000	 	tm単位の数値である。ただし、
	測定項目	全長 L (m) 支間長 Ln (m)	通り δ (mm)	₹9 8 (mm)	※主桁、主構の中心問距離 B (m)	※主桁の橋端における出入差 8 (mm)	※主桁、主構の鉛直度 8 (mm)	※現場継手部の寸き間 δ 1、 δ 2 (mm)	※規格値のL、Ln、Bに代入する数値はm単位の数値である。ただし、
	工種				来設工 (鋼橋) (クレーン条設) (ケーブルクレーン条説) (ケーブルメエレクション	(条 株 報) (条 株 報) (法 出 し 来 設) (トラ ベ ラ ー ケ レ ー ン 株 設)			

単位mm 摘要 測定箇所 侧面図 祖里因 側面図 平面図 断而図 断面図 桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発 行するJISに基づく試験成績表に代えることができる。 桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発 行するJISに基づく試験成績表に代えることができる。 測定基準 $\begin{array}{c} \pm 10 \cdots L \leqq 10m \\ \pm L \diagup 1000 \cdots L > 10m \end{array}$ $\pm L/1000$ 規格値 +10 ± 10 +5 $_{+}^{\infty}$ 115 $_{\infty}^{+l}$ 横方向の曲がり δ2 横方向の曲がり δ2 橋桁のそり δ1 断面の外形寸法 断面の外形寸法 0 析長 L (m) 桁長 L (m) 測定項目 橋桁のそり プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋) プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)

出来形管理基準及び規格値

単位mm	網													
	測定箇所	W1				Wz) Mag	
	測定基準	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。	なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発 行するJISに基づく試験成績表に代えることができる。	0:支間長 (m)			桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸 法表示箇所で測定。		桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 8:支間長(m)		桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と 中央部の3箇所。	※鉄筋の出来形管理基準については、床板工に準する。 0:桁長 (m)		
	規格值	+10 -5	9 +1	+10 -5	0<15…±10 0≥15…± (0−5) カンつ-30mm以内	0.80	1	1	0<15…±10 0≥15…± (0−5) かつ−30mm以付	0.80	± 20	-5~+30	-10~+20	$\emptyset < 15 \pm 10$ $\emptyset \ge 15 \pm (\emptyset - 5)$ $\beta > 0$ 30 m $\mathbb{R} \downarrow \mathbb{N}$
	測定項目	帽(上) 🕶	幅 (下) w²	画な h	析長0 支間長	横方向最大タワミ	析長の	断面の外形寸法 (mm)	桁長 0 支間長	横方向最大タワミ	△ 皇嶽雅	m wi、w	厚さ t	桁長 0
	工種			ポストテンションが創作工	丁二米甲ンドン・ハンドン・マ		プレキャストセグメント桁製作工(購	AT)	プレキャストセグメント主桁組立工			ロチャーマは~無化・	一本業へへく	

摘要 W 2 W W22 測定箇所 W hi 11 桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間当たり両端と 中央部の3箇所。 桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、床版工に準ずる。 ※鉄筋の出来形管理基準については、床版工に準ずる。 -連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。 測定基準 各桁毎に全数測定 0: 桁長 (m) 0: 桁長 (m) $\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \ge 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ-30 mm以内 $\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \ge 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ カンつ-30mm以内 規格値 $-5 \sim +30$ $-5 \sim +30$ $-5 \sim +30$ ± 20 +10 -5--10 +10 +5 15 1 桁の中心間距離 ${\sf W}_1$ h 2 h 幅 (上) w₁ 幅 (下) w2 \mathbf{W}_3 \mathbb{W}_{2} М 3 h 1 全長・支間 h 測定項目 雪 (上) (上) 譻 内空南さ 基準高 内空高さ 内空幅 内空幅 桁長 画い 桁長 架設工 (コンクリート橋) PC押出し箱桁製作工 (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定) (移動) PC箱桁製作工 架設桁架設 (片特架設) (押出し架設)

単位mm

画
劵
盟
3
皮
删
其
黚
峨
黨
*

						単价mm
			規格値			ana grai
工種	測定項目	個々の 測定値 (X)	10個の 測定値の平均 (X10)	測定基準	測定箇所	麗麗
	△ 皇東署	+40	ı	基準高は延長40m年に1箇所の割とし、道路中心線及び 端部で別だ。 1 によった。	基準高については、舗装版打換え時は補充材等施工完了 面、全層打換え時の上層路盤の施工のみの場合は施工層	
半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	世	-45	-15		下面にて側尾する。	
	뿰	-50	ı			
	△ 皇東著	+40	1		基準高については、舗装版打換え時は補充材等施工完了 面、全層打換え時の上層路盤の施工のみの場合は施工層	
半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	世	-25	8-	- 基準高信祉長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び 場部で創産(ただし、舗装板打換え時の路床面の基準高 増置だささない場合及び、舗装機等が下層路線の断工の	下面にて側尾する。	
	뿰	-50	ı	これで、その後の「おもの」。 こうはい こうしょう かっぱん (適用する)。		
半たわみ性舗装工	が重	6-	-3	幅は、延長40m年に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m年に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐	
(工圏筆)	뷀	-25	I		ALCJ める後回は、白の方 我による ことが 日米 ら。	
	庫	2-	-2	幅は、延長40m年に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m年に割ります。	コアー採取について 橋面舗練等でコア・ では、からないより床版等に損傷を与える恐事にある。 メニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
半たわみ性舗装工	野	-25	I		オレククめる場合は、他の方法によることが日来る。 雑牲T曺 エカータセ柿〒近直100m井鎌フは ム帯枯1 ア ト ヒ	
(表層工)	平坦性	ı	3 mプ n74炒ー (σ) 2. 4mm以下直読式 (足付き) (σ) 1.75mm以下		fetyl・・、父のボールなtoutと聞くなんとなるできゃい。 補限した箇所においては、平坦柱の項目を省略することが出来る。	
半たわみ性舗装工	わ	-25	8-	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m 毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐	
(上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	題	-20	1		れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
半たわみ性舗装工	と	-15	-5	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m 毎に割定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐	
(加熱アスファルト安定処理工)	쀁	-20	ı		れのめる場合は、白の方弦によることが日米も。	
	△ 皇東瑨	+ 40	I	基準高は延長40m年に1箇所の割とし、道路中心線及び 端部で測定。	基準高については、舗装版打換え時は補充材等施工完了 面、全層打換え時の上層路盤の施工のみの場合は施工層	
ポーラスアスファルト舗装工 (下層路盤工)	や画	-45	-15		ト団にて別定する。	
	閏中	-50	T			
	△ 皇東瑨	+40	ı		基準高については、舗装版打換え時は補充材等施工完了 面、全層打換え時の上層路盤の施工のみの場合は施工層 エディーがは、	
ポーラスアスファルト舗装工 (上層路盤工)	名画	-25	8-	・毎年高さ近女40m毎に1圏が2割20、当路下小教女の「編戦で遡ん。	r 国にて倒圧する。	
	閆	-20	I			

出来形管理基準及び規格値

单位, mm		ta 測定箇所 摘要	とし、厚さは、各車線20 コアー採取について 割でコアーを採取して測 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐		し、厚さは、各車線20m コア一採取について コアーを採取して測定。 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐		舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	とし、厚さは、各車線20 割でコアーを採取して割 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐	たのめる場合は、白の方弦によることや日米も。	とし、厚さは、各車線20 コアー採取について 割でコアーを採取して測 橋面舗装等やコアー採取により床板等に損傷を与える恐	たのめる場合は、白の方弦によることや日米も。	とし、厚さは、各車線20 コアー採取について 割でコアーを採取して割 精面舗接等でコアー採取により床板等に損傷を与える恐 割でコアーを採取して割 (************************************	100 どの添つは、白の方でによるしてが日来る。	とし、厚さは、各車線20 コアー採取について 割でコアーを採取して測 橋面舗装等やコアー採取により床版等に損傷を与える恐		し、厚さは、各車線20m コアー採取について コアーを採取して測定。 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐	れのある場合は、他の方法によることが出来る。 雑牲下書 B 78 竹下 74 巨 10mm 4 端 27 4 人 4 m 4 4 1 7 7 7	雑数したも、父の海上はXtout大師大は入り返ぶしたよう雑数したおいでは、平坦柱の項目を省略することが出来る。	の基準高の差で算出す B パその中心とする。 ・ 工橋所とする。 ・ ・ ・	
_		平均	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20 m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測	Æ。	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、 毎に測定し、1000㎡に1個の割でコア		- (σ) 直部式 (ξ) mu以下	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20 m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測	压。 ————————————————————————————————————	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20 m毎に測定し、1,000mstに1個の割でコアーを採取して測	压。	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20 m毎に測定し、1,000mに1個の割でコアーを採取して測	ư	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000m兆に1個の割でコアーを採取して測	Æ,	幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、 毎に測定し、1000㎡に1個の割でコア 年に消じ、上が立		- (o) 直部式 (x) mm以下	厚さは40m毎に現舗装高と切削後の基準高の差で算出する。 る。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 征長40m未満の場合は、2備所/施工循所レする。断面状	- で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。
	規格値	個々の 10個の 測定値 測定値の平均 (X) (X10)	9	-25	-7	-25	3 m 7 v74ψ- (σ) 2.4mm以下直部式 (足付き) (σ) 1.75mm以下	-25	20	-15 -5	20	-15 -5	20	-9	-25	-7	-25	3 m7' n7(W)- (σ) 2. 4mm以下直離式 (足付き) (σ) 1.75mm以下	-7	-25
-		測定項目	世	野	が	唧	平田体	とという。	野	が	野	が重	閆	世	野	とという。	脚	水田体	画 い t	M last
日子でも、仕色十次の、浴中面		工種	ポーラスアスファルト舗装工	(军層工)		111144	ホーフスア ペンテルト開終上 (表層工)	ポーラスアスファルト舗装工	(工場暗強工) セメント (石灰) 安定処理工	ポーラスアスファルト舗装工	(加熱アスファルト安定処理工)	ゲースアスファルト舗装工	(加熱アスファルト安定処理工)	グースアスファルト舗装工	(宝層工)		グースアスファルト舗装工	(表層工)	ata 100 tat, ata 410	下间 四國

坦
X
イバ甘
Ľ
世業
Ħ
肼
担批
野田
畏

17.8							単位mm
	工種		測定項目	規格値		測定箇所	蓋>>
				±40			
「語		器章	10	該当工種			
第		組 日		-50		W	
原	装打換之工		岷	-100			
			10	該当工種]	
		編盤上		-25			
## 1		1	嵐	-100			
編		世		6-	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で 算出する。	фł -	
		單	*	-25	→避所点は単道中心線、単道端及びその中心とする。 幅は、遊長80m年に1箇所の割りとし、延長80m末満の場合 は、登降17年1年ドレナス		
T	ーバーレイエ	湖		-100	*************************************	~~~~ /	
Tンカーボルト定着長		F	型	10 個の測定値の平均 (X10) $3\mathrm{m}^{7}^{\mathrm{n}}74$ M^{-9} -(σ) 2.4 m以下 直誂式 (足付き) (σ) 1. 75m以下			
Tンカーボルト定着長	- m + 1 - +4 44	アンカー	ボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定		
部材	请 妙 工 装	アンカ	一ボルト定着長	-20以内 かつ-1D以内	数測定 : アンカーボルト径		
基準高 □	壁支柱製作工		部材長 0 (m)	$\begin{array}{c} \pm \ 3 \cdots \ell \leq 10 \\ \pm \ 4 \cdots \ell > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。		
原文 11~14		第		±30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。		
延長 L < 20m ±30 施工延長40m (測点開解25mの場合は50m) はつき1億 本工延長40m (別点開解25mの場合は50m) はつき1億 本工延長40m (別点開解25mの場合は50m) 以下のものは1施工箇所に 海 x -30 所工延長40m (別点開解25mの場合は50m) 以下のものは1施工箇所に 高さ h 30 1施工箇所毎 延長 L -200 1施工箇所毎		を宣		-20		w ta	
高さ h ±30 h 上 </td <td></td> <td>幅(内</td> <td></td> <td>-30</td> <td></td> <td>t: # = </td> <td></td>		幅(内		-30		t: # =	
延長 L L 20m -50 施工延長40m (測点開隔25mの場合は50m) につき1箇所。 本本 幅 v -30 施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所に 本本 高さ h 30 1施工箇所年	 	但立		±30		\	
心文 L L≥20m 一100 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所 本 幅 N -30 所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所に 本 高さ h 30 1施工箇所年 延長 L -200 1施工箇所年			T	-50		4 400 000	
Mar T延長40m (測点開隔25mの場合は50m) につき1箇 所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所に 元さ h 30				-100			
高さ h 30 ごと Z 園 J 施 工 箇 所 面		₽		-30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、 1 2 40m (又は20m) 以下のものは1施工簡別に 3 4 50m) 以下のものは1施工簡別に	*	
T — -200	音壁基礎工	I IIIM.		30		d.	
		1904		-200			

単位mm 摘要 - 디 測定箇所 700 \bigcirc W2 3072 エ 測定基準 . 箇所/1略掛版 1 施工箇所毎 設計值以上 設計値以上 $h \times 0.5\%$ +30, -20 規格値 +20 +15 -30 -30 10 5 ねじれ b-c ≱ ずれ a w1, w2 開網 Ч 各部の長さ 設置高さ H 各部の厚さ 各部の長さ 中心のずれ アンカー長 測定項目 基準高 延長 高い 高さ 聖 支柱 踏掛版工 (ラバーシュー) 略掛版工 (コンクリートエ) 踏掛版工 (アンカーボルト) 遮音壁本体工 大型標識工 (標識柱工)

単位mm 摘要 接続部 (地上機器部) Ţ Ţ 測定箇所 9 − · 6 接続部 (地上機器部) W ц 測定基準 1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合 接続部間毎で全数。 1箇所/1施工箇所 規格値 0 - +50-200 +30 -20 -30 -30 -30 -30 \mathbf{W}_{2} h., h \triangleright 埋設深さ t 測定項目 画 c h 延長 I M 叫 +10 40 基準高 恒 ※ <u></u>一 ※ 聖※ 照明工 (照明柱基礎工) ケーブル配管工 (ハンドホール工) ケーブル配管工

出来形管理基準及び規格値

出来形管理基準及び規格値

単位mm	瀬						
	測定箇所	8 ************************************	8000	00 p		御面図 正面図	が 関節図 正面図
	測定基準	各脚柱、ベースブレートを測定。	全数を測定。	全数を測定。	両端部及び片特ばり部を測定。	各主構の各格点を測定。	各柱及び片特ばり部を測定。 H:高さ(m)
	規格値	w∕500	1 + 2	£ 20 0	$\begin{array}{c} \pm 5 \cdots L \leq 10 m \\ \pm 10 \cdots 10 < L \leq 20 m \\ \pm (10 + (L - 20) \ \ \ \ / 10) \ \cdots 20 m \\ < L \end{array}$	L / 1000	10…H≦10 H/1000…H>10
	測定項目	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)	おく、この位置によって、この位置によって、このでは、ことによって、ことによって、ことには、ことには、ことには、ことには、ことには、ことには、ことには、ことには	レ ト ト 孔の徭 d	柱の中心間隔、 対角長 L (m)	仮 はりのキャンバー 船 及び柱の曲がり 立 § (mm)	柱の鉛直度 δ (mm)
	工種				鋼製橋開製作工		

単位mm 蓋爂 W₂ W₁ | L2 | 中心線の変化 | a1: 橋軸直角方向| | a2: 橋軸方向| E al 測定箇所 W3 h 橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示 示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。 測定基準 1/50以下 $+10 \sim -20$ 規格値 ± 20 -10 -10-50 -30 -20 -50 -50 -50 アンカーボルト孔の 鉛直度 平面位置 計画部 天端幅 w₂ (橋軸方向) 敷幅 w₃ (橋軸方向) 胸壁の高さ h2 胸壁間距離 0 支間長及び 中心線の変位 天端幅 w1 (橋軸方向) 画さ h₁ 測定項目 敷長 02 天猫板 基準高 と 箱抜き規格値支承部アンカーボルトの 橋台躯体工

単位mm 蓋爂 中心線の変位 (a1: 橋軸直角方向) (a2:橋軸方向) ^a↓ 測定箇所 D D F 橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示 示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。 1/50以下 $+10 \sim -20$ 規格値 ± 20 -20 -50 -50 -20 -50 -50 アンカーボルト孔の 鉛直度 平面位置 平画 支間長及び中心線の変位 天端幅 w1 (橋軸方向) 橋脚中心間距離 敷幅 w2 (橋軸方向) 測定項目 画 A P 敷長 02 天端長 基準高 と 箱抜き規格値 支承部アンカーボルトの (張出式) (重力式) (半重力式) 橋脚躯体工

単位mm 蓋爂 中心線の変位 (a1:橋軸直角方向) (a2:橋軸方向) 測定箇所 末間度 FIN д 橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示 示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。 $+10 \sim -20$ 1/50以下 規格値 ± 20 -20 -50 -20 -20 -20 アンカーボルト孔の 鉛直度 平面位置 車車車 支間長及び中心線の変位 橋脚中心間距離 W 2 測定項目 Ч 8 基準高 天踏幅 長さ 高い せば 敷幅 箱抜き規格値 支承部アンカーボルトの (ラーメン式) 橋脚躯体工

中心m 羞瞅										
測定簡所	 }b				h T H	I			中心級の変化 (a 1: 簡軸直角方向) (a 2: 摘軸方向)	
測定基準	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示 示箇所。				橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
規格値	±20	-50	-50	-50	± 20	-50	-50	± 20	900 +1	H 50
測定項目	△ 皇東≇	幅 w (橋軸方向)	u vie	長さ 0	△ 學康霏	· M · · M · · · M · · · · · · · · · · ·	他 ロ	△ 皇東筆	橋財中心間距離 0	支間長及び中心線の変位
工種		権脚フーチングエ	(<u>1</u> 型)			橋輝フーチングエ(門型)			権闘架設工 (1型・1型)	

理
葵
票
~
舞
其
型
毑
患
二米形
-

単位.mm 官箇所 摘要		(1) (a 2: 橋軸方向)	<u></u>										
測定箇所		(a1: 僑軸直角方向) (a2: 僑軸方向)	3										
測定基準	「格軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 示箇所。			主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合	図面の寸法表示箇所で測定。	図面の寸法表示箇所で測定。 析全数について測定。 横方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測 に。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0:スパン長	図面の寸法表示箇所で測定。 格全数について測定。 機方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測 だ。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0:スパン長 各支点及び各支間中央付近を測定。	図面の寸法表示箇所で測定。 桁全数について測定。 構方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測 だ。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0:スパン長 各支点及び各支間中央付近を測定。 原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で 測定。	図面の寸法表示箇所で測定。 桁全数について測定。 機方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測 に。 作断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0: スパン長 各支点及び各支間中央付近を測定。 原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で 順定。 各主託について10~20m間隔を測定。	図面の寸法表示箇所で測定。 格全数について測定。 機方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測 に。 格断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0:スパン長 各支点及び各支間中央付近を測定。 原則として仮組立をしない部材について主要部材金数で 別定。 本主桁について10~20m間隔を測定。 両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。	図面の寸法表示箇所で測定。 格全数について測定。 機方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測 た。 作所面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0: スパン長 各支点及び各支間中央付近を測定。 原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で 別定。 向端・施工維手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。	図面の寸法表示箇所で測定。 格全数について測定。 機方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測 た。 作断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0:スパン長 各支点及び各支間中央付近を測定。 原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で 原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で 周度。 各主桁について10~20m間隔を測定。 両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。	図面の寸法表示箇所で測定。 格全数について測定。 機方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測 に、 格所面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 0: スパン長 合支点及び各支間中央付近を測定。 原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で 別定。 南端・施工維手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。
規格値	±20	T 30	H 50			1+1	+ 10 + 10 - 5	$\begin{array}{c} \pm 5 \\ \pm 10 \\ -5 \\ 0 \ge 15 \cdots \pm (0-5) \\ 0 > 15 \cdots \pm (0-5) \\ 0 > 0 > 30 \text{ m M M M} \end{array}$	+10 +10 -5 -6 -5 かつ-30mm以対 0.88	$\begin{array}{c} \pm 5 \\ +10 \\ -5 \\ 0 < 15 \cdots \pm 10 \\ 0 \ge 15 \cdots \pm (\ell -5) \\ \hbar > -30 \text{m m M } \mu \neq 1 \\ 0.8\ell \\ \end{array}$	$\begin{array}{c} \pm 5 \\ +10 \\ -5 \\ 0 \\ -15 \\ -10 \\ 0 \\ -10 \\ 0 \\ -10 \\ 0 \\ -10 \\ 0 \\ -20 \\ \end{array}$	$ \begin{array}{c} \pm 5 \\ +10 \\ -5 \\ 6 < 15 \cdots \pm 10 \\ 0 \ge 15 \cdots \pm (0-5) \\ $	$ \begin{array}{c} \pm 5 \\ & -5 \\ & -5 \\ & -5 \\ & -5 \\ & -5 \\ & -6 \\ & -6 \\ & -6 \\ & -6 \\ & -6 \\ & -6 \\ & -6 \\ & -7 \\ & -20 \\ & -20 \\ & -30 \\ &$
測定項目	□ 単葉	橋脚中心間距離 0	支間長及び中心線の変位	現場継手部のすき間 §1、§2 (mm)	部 部材長 0 (m)	部材長電響	海 本 本 本 本 を を を を を を を を を を を を を	海 本 本 本 本 本 本 大 大 大 大 大 大	部材長 高さ 木長 スパンパン 横方向最大、	部材表 高高な 名様 スペペント 横方向最大、 基準 音	部を表する。 をまする。 をまるる。 をまする。 をまる。 をまる。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を	部を表しています。 をましています。 をましていまな。 をましていまな。 をましていまな。 をましていまな。 をましていな。 をましていまな。 をましていまな。 をましていまな。 をましていまな。 をましていまな。 をまして	部を表して、 をまして、 をまして、
工種		橋脚架設工 (門型)		現場継手工	橋梁用高欄製作工	橋梁用高欄製作工	橋梁用高欄製作工 がレビーム桁製作工 (現場)	橋梁用高橋製作工 プレビーム桁製作工 (現場)	橋梁用高橋製作工 プレビーム桁製作工 (現場)	橋梁用高橋製作工 ブレビーム格製作工 (現場)	橋梁用高橋製作工 プレビーム桁製作工 (現場)	橋梁用高橋製作工 ブレビーム格製作工 (現場)	橋梁用高橋製作工 プレビーム桁製作工 (現場) 現場打躯体工

単位mm 蓋爂 測定箇所 ≱ > × D Ч 施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施 工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の 段階検査時のみ適用する 両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。 両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。 測定基準 図面の寸法表示箇所で測定。 図面の寸法表示箇所で測定 延長:1施工箇所毎 設計值以上 設計値以上 規格値 ± 50 ± 30 -200 -20 -20 -20 -20 -20 × × Ч \triangleright 測定項目 10 HU +0 10 40 恒 岷 無 世 聖 岷 靊 世 恒 聖 世 鬃 崽 プレキャスト躯体工 防水工 (防水保護工) 防水工 (防水壁) カラー継手工 防水工 (防水)

単位mm 摘要 特殊部 特殊部 測定箇所 両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。 測定基準 接続部(地上機器部)毎に1箇所。 規格値 0 - +50-200 +30 ± 30 ± 30 -50 -20 -30 \triangleright \triangleright ₿ Ч 測定項目 埋設深 h 延長 L 恒 恒 +0 聖 恒 ブロック長 舞 删 뫲 뫲 埘 \mathbb{E} \mathbb{K} 革 世 プレキャストボックス工(特殊部) 現場打ボックスエ 管路工 (管路部)

出来形管理基準及び規格値

単位mm 摘要 摘要 , q ≥ トラス弦材 測定箇所 測定箇所 現舗装 Ч 0 B 型鋼桁 厚さは20m毎に「現舗装高さと切削後の基準高の差」、「切削後の基準高の差」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。欄に底長40m年に1億所の割とする。 延長20m末満の場合は、2億所/割上する。 延長20m末満の場合は、2億所/割上がる。 が形で、間隔、測点数を変えることが出来る。測量方法は自動機断測定法によることが出来る。 構造別に、5部材につき1個 抜き取った部材の中央付近 を測定。 維持工事及び施工延長100m未満、または人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することができる。 各支点及び各支間中央付近 を測定。 各支点及び各支間中央付近 を測定。 トラス・アーチ等 主要部材全数を測定。 0:部材長 (mm) 測定基準 測定基準 鋼桁等 床組など **企数** 3mプロ710 λ - β - $(<math>\sigma$)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm以下 10個の測定値 の平均(X10) -2 $\begin{array}{c} \pm 2 \cdots w \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0 \\ \pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w \end{array}$ 設計値以上 規格値 規格値 lar_{1000} -1006--25 個々の測定値 (X) 2-フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m) 厚さ t (オーバーレイ) フランジの直角度 δ (mm) 圧縮材の曲がり δ (mm) 輧 重ね継手長 測定項目 測定項目 厚さ t (切削) 型 軾 聖 崽 H 床版補強工 (炭素繊維シート接着) 均割オーバーレイ (路面均割) 桁補強材製作工 工種 工種

出来形管理基準及び規格値